

健全母性育成事業の向上に関する研究

研究協力者 武田 敏(千葉大学教育学部)

研究の目的

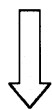
健全母性育成は結婚してからでは既に遅く、思春期や学童期から適切な対策や指導が行われるべきことは言うまでもない。思春期の今日像は、十代妊娠、性病、心身症、各種逸脱行動が医学的、社会的、教育的問題を惹起しており、これらが健全な母性の育成に対し障害因子となっているリスクは見逃す事ができない。この点に課題をしぼり、青少年女性の実態を調査し、今後の健全母性育成の指針を求めることを目的として研究を実施した。

研究の方法

思春期の妊娠、中絶、産婦人科的諸疾患、非社会的・反社会的行動に関し、国内の諸機関による調査成績、統計を集め分析して、これらが健全母性育成に与える障害の内容と可能性を研究する。また、ヨーロッパ、アメリカにおける思春期問題に関しても資料により検討し、わが国の対応統計と対比することにより、将来わが国の思春期問題の参考とする。

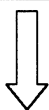
研究の成績

調査資料の集計・分析中であって、最終的とりまとめにまで至っていないが、わが国における思春期女性の母性保健学的に心配される諸問題は、米国におけるほどには増大はしていないものの、確実に増加の傾向にある。欧米に比して少ないことは、なお安心してよいということではなく、多い国の社会的背景、歴史的背景を検討しつつ、わが国における好ましくない方向への進行を阻止する方法を開発しなければならぬ。また、このためには思春期にある現代の青少年の心理を十分考慮した上で、対策・教育のあり方を考えるべきである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究の目的

健全母性育成は結婚してからでは既に遅く、思春期や学童期から適切な対策や指導が行われるべきことは言うまでもない。思春期の今日像は、十代妊娠、性病、心身症、各種逸脱行動が医学的、社会的、教育的問題を惹起しており、これらが健全な母性の育成に対し障害因子となっているリスクは見逃す事できない。この点に課題をしぼり、青少年女性の実態を調査し、今後の健全母性育成の指針を求めることを目的として研究を実施した。